

「行啓記念絵葉書図案」明治43年【明か13(20)】

令和元年5月7日(火)～7月25日(木)

皇室 と 滋賀県

第七十三回企画展

滋賀県庁新館3階県民情報室内 県政史料室

関連講座

「滋賀県行幸啓史」

日時：令和元年6月19日(水) 14時～15時

場所：県庁北新館5階5-F会議室

★要予約★右連絡先までご参加の旨ご連絡ください

滋賀県県政史料室

tel: 077-528-3126

fax: 077-528-4813

mail: kenmin-j@pref.shiga.lg.jp

【展示概要】

期間 令和元年5月7日(火)～7月25日(木)

日時 月曜日～金曜日(祝日を除く)

午前九時～午後五時

会場 県政史料室(滋賀県庁新館3階 県民情報室内)

内容 滋賀県歴史的文書等二十四点(複製含む)

他パネルあり

【関連講座】 ※要予約

題目「滋賀県行幸啓史」

日時 令和元年6月19日(水) 午後二時～三時

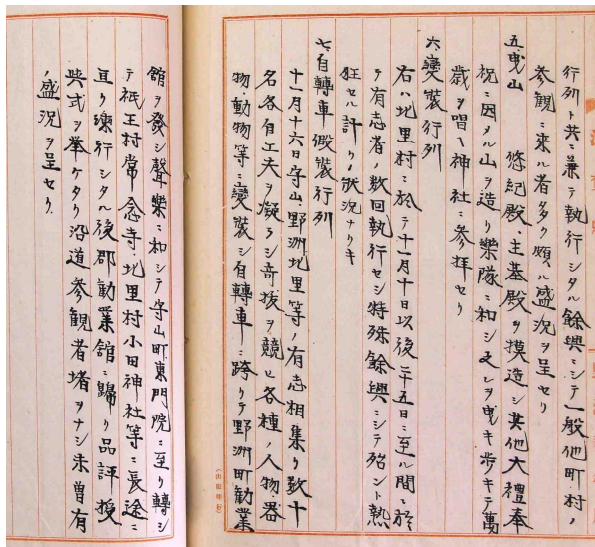
会場 県庁北新館5階5-F会議室

講師 当室嘱託員 岡本和己

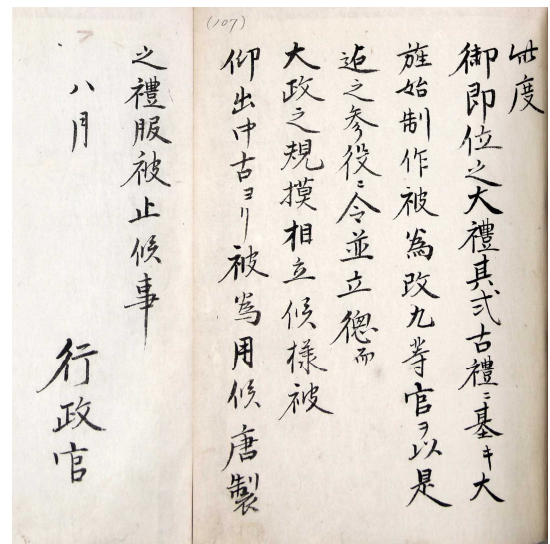
近代以降、滋賀県には多くの皇室の方々が行幸訪問されています。令和元年五月一日、新たに即位された天皇陛下も、昨年五月をはじめ、皇太子時代に度々御来県され、県民との親睦を深められました。

また、本県には、行幸をはじめ献上品や陵墓に関するものなど、皇室と関わりの深い歴史的文書が数多く残されています。中には、皇室の方々が食された地元食材をふんだんに用いた献立表や、昭和二十六年に戦後初めて昭和天皇が県内を巡幸された際の写真などもあります。

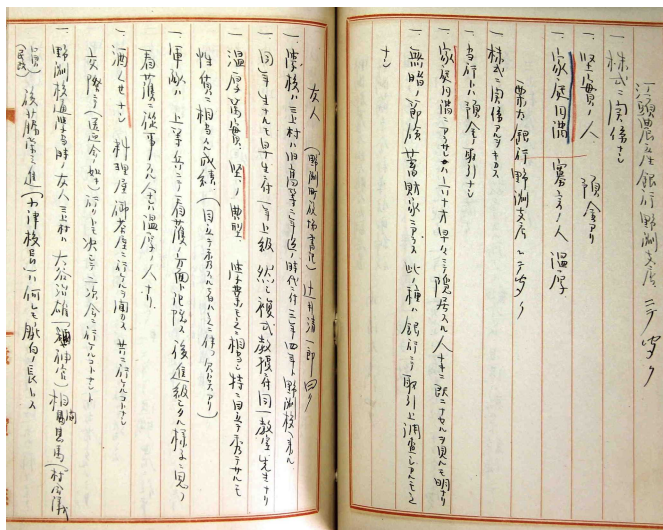
そこで、今回の展示では「皇室と滋賀県」と題して、近代以降の行幸を中心に本県と皇室との関わりを紹介したいと思います。難しいイメージのある公文書ですが、身近で親しみやすいものもございますので、ぜひご覧ください。



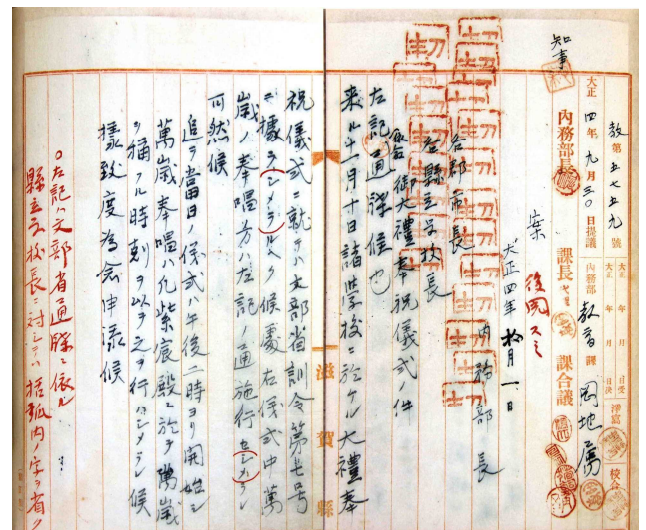
③「各地方国民大礼奉祝の景況（野洲郡）」
大正5年9月6日【大か21 合本3 (5-3)】



①「御大礼について」慶応4年8月【明あ2 (106)】



④「悠紀斎田候補地調査（野洲郡三上村）」
昭和3年【昭た452 (12)】



②「万歳奉唱の時刻通牒」大正4年11月3日
【大か19 (12)】

大礼と滋賀県

天皇の踐祚（天皇の位につくこと）から、即位の礼（一般に即位を公示する儀式）、及びその後に行われる大嘗祭（即位後初めて行う新嘗祭）をまとめて大礼といいます。

明治天皇の大礼では、古来の様式が踏襲されつつも、唐風（中国風）のものが排除されるなど新しい要素も加えられました（史料①）。

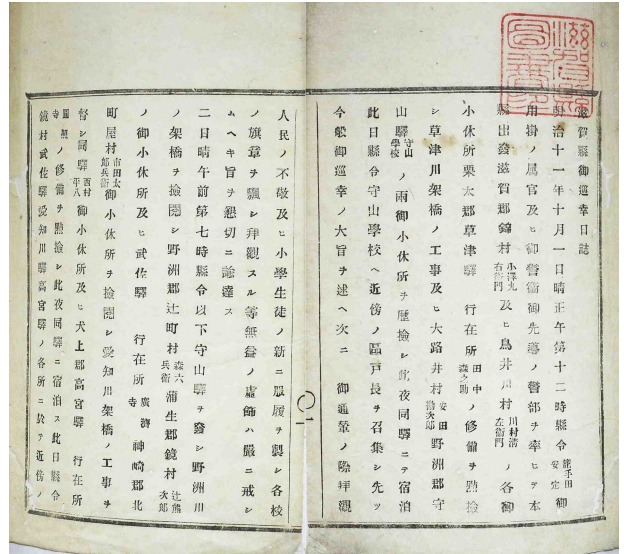
大正天皇の大礼では、国民への周知が徹底的に図られ、京都での即位の礼と同時に、全国の学校で大礼奉祝儀式が行われました。そして、紫宸殿で内閣総理大臣が万歳を唱える時刻にあわせて、全国で一斉に万歳奉唱が行なわれたのです（史料②）。

このような国家を上げた儀式の一方で、民間でも大礼を記念して仮装行列など様々な行事が行われ、「未曾有ノ盛況」であったようです（史料③）。

大嘗祭に供える米を作る田を悠紀・主基斎田といいますが、昭和三年の悠紀斎田に野洲郡三上村の条川春治の田が選ばれました。史料④は、その時の県内候補地調査で、気象、水利関係、伝染病等の調査が行われました。また、人物調査も念入りになされ、家族や友人、隣人だけでなく、銀行や自転車屋にまで聞き取りを行っています。



⑦「鶴駕奉迎記」大正 7 年類【明か 10 (1)】



⑤「御巡幸日誌」明治 11 年【明か 3 合本 2】

年月日	御用務	御成園	御成園
1911.10.1	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.2	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.3	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.4	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.5	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.6	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.7	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.8	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.9	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.10	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.11	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.12	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.13	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.14	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.15	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.16	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.17	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.18	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.19	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.20	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.21	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.22	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.23	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.24	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.25	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.26	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.27	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.28	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.29	近江御成園	近江御成園	近江御成園
1911.10.30	近江御成園	近江御成園	近江御成園

⑧「高松宮殿下本県御成箇所」昭和 22 年【昭か 28 (19)】



⑥「東宮行啓記念写真帖・ハガキ図案」明治 43 年 9 月【明か 13 (20)】

滋賀県への行幸・行啓

明治以降現在に至るまで、滋賀県には皇室の行幸、行啓が何度もありました（八頁の年表参照）。

明治天皇が地方視察を目的にはじめて本県を訪れたのは、明治十一年（一八七八）の北陸巡幸の際でした。その時の日誌が史料⑤で、行幸の様子が詳細に記されています。また明治二十三年にも、新築された県庁と、琵琶湖疏水の視察のため来県し、県庁舎で昼食をとっています。

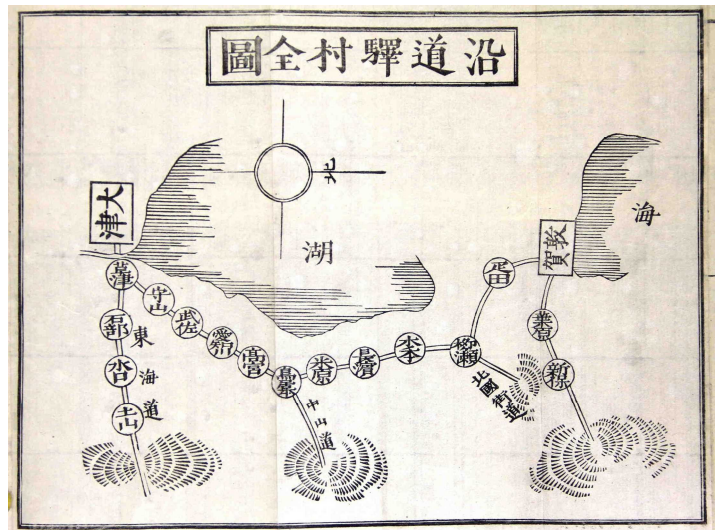
大正天皇の来県は、ほとんどが大正六年に彦根で行われた陸軍大演習をはじめとする軍事目的で、視察を主目的とした来県は、明治四十三年（東宮時代）の巡幸だけでした。この巡幸を記念して、写真帳や絵はがき、記念スタンプが作られています（史料⑥）。

史料⑦は、昭和天皇が大正七年に皇太子として来県した際に、滋賀県が作成した日記です。昭和天皇は、終戦後の昭和二十六年、三十三年ぶりに再び滋賀を訪れ、二日間で琵琶湖を一周しています。

その他にも、多くの皇族が滋賀県を訪れています。本県によく訪れた皇族のひとりが高松宮親王です。昭和天皇の弟である高松宮は、昭和十三年に近江神宮奉賛会の総裁に就任して以降、毎年のように来県しています（史料⑧）。近江神宮や社寺の参拝、近江兄弟社やレーヨン工場などの社会事業・産業施設の視察を行いました。また、大津で行われていた高松宮杯競輪にも毎年来場していたようです。

大谷	石山	馬場	草津	八幡	能登川	河原	彦根	米原	醒井	長岡	柏原
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時
四	三	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二
十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八
分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分
御	御	御	御	御	御	御	御	御	御	御	御
通	通	通	通	通	通	通	通	通	通	通	通
車	車	車	車	車	車	車	車	車	車	車	車

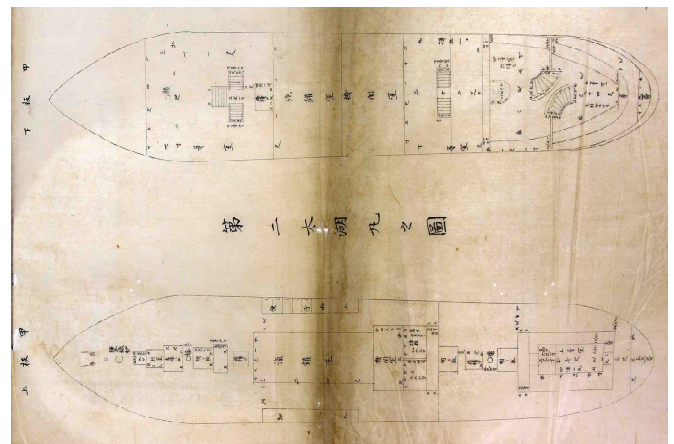
⑪「県内御通輦時刻」明治36年11月9日
【明か9合本1(26)】



⑨「滋賀県下輦道略記」明治11頃【明か22合本3(5)】



⑫「昭和天皇乗車の御料車」昭和26年【滋賀県所蔵】



⑩「第二太湖丸平面図」明治19年11月5日【明か6(2)】

行幸・行啓手段の変化

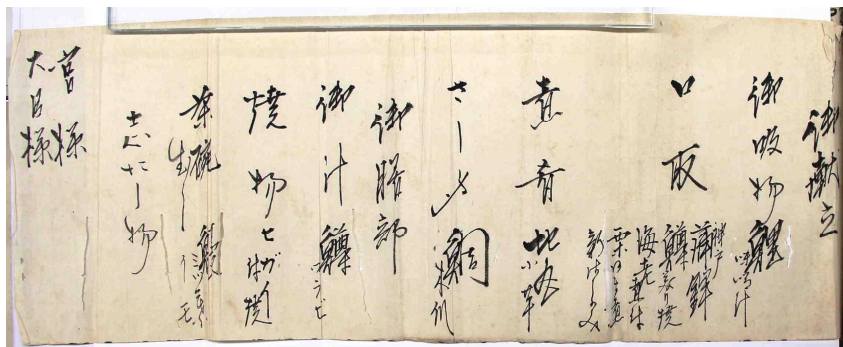
鉄道がない時代、天皇の行幸は馬車が主体でした。史料⑨は、明治十一年の明治天皇行幸時の県内の行程を記した絵図です。この行幸では、東京・京都間を馬車で約二十日かけて移動しました。絵図によると、天皇は石川県から、当時は滋賀県の管轄であった敦賀郡（現・福井県）へ入っています。

明治二十年の明治天皇還幸の際には、主な交通手段として鉄道が用いられるようになります。しかし、まだ鉄道が開通していなかった大津・長浜間では、湖上汽船が利用されました。史料⑩は、そのとき乗船した第二太湖丸の図面です。乗船時間はおよそ三時間三十分であったようです。

明治二十二年に東海道線（新橋・神戸間）が全通したことにより、翌年に天皇は東海道の全行程を鉄道で往復しました。片道通算十五時間四十七分と、その移動時間は大幅に減少しました。また、ダイヤグラムが本格的に導入され、途中駅の停車、通過時刻までもが事前にわかるようになりました。

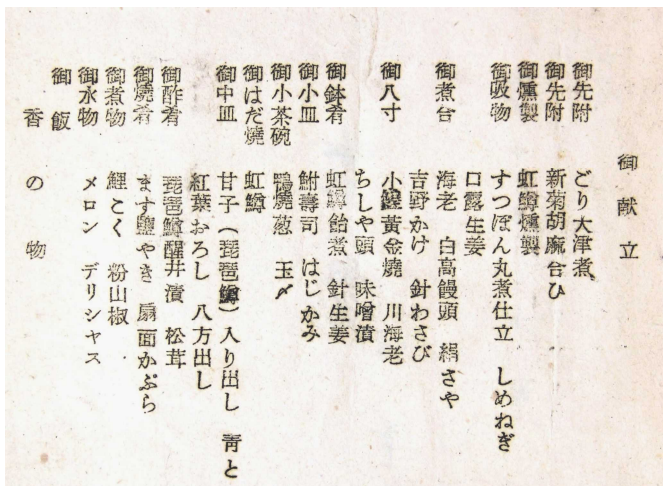
史料⑪は、明治三十六年の兵庫県への行幸時の時刻表です。事前に通知された通過時刻にあわせて、沿道やホームで奉迎を行いました。

大正七年頃からは、行幸先での短距離移動手段も、馬車や人力車から自動車へと変わっていきました。史料⑫は、昭和二十六年に昭和天皇が県内を視察する際に利用した御料車です。

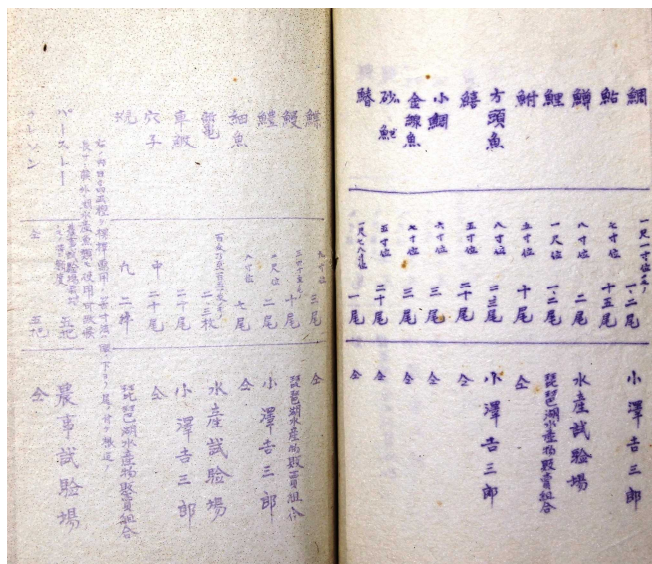


⑬「献立表（ヒガイ）」明治23年4月6日【明か4合本2（42）】

⑮「琵琶湖木テル献立表」
昭和17年11月17日【昭か25(14)】



⑬「醒井養鱒場夕食献立表」
昭和17年11月18日【昭か26(1)】



⑭「所要御料品概略」大正6年【大か8合本1(7-94)】

皇室のお食事

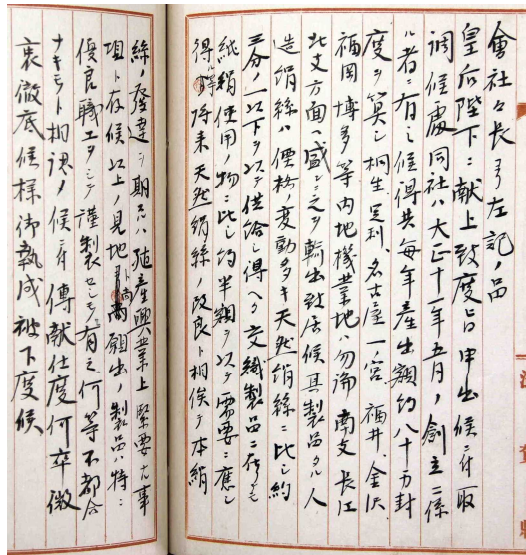
明治二十三年、明治天皇は新築の滋賀県庁舎と琵琶湖疏水の見学のために滋賀県を訪れました。この際に県庁で食した琵琶湖固有種のヒガイを、明治天皇は大層気に入ったようで、その後も度々ヒガイを取り寄せたといひます。この出来事により、これまで漢字のなかつたヒガイに「鯉」という字があてられました。明治天皇に随行していた親王、大臣らが食した献立表（『史料』^⑬）には、ヒガイが漢字ではなく、カタカナで書かれています。

大正六年の陸軍大演習では、天皇だけでなく多くの軍事関係者が国内外から滋賀県に集まったため、たくさんの宿泊所と食材が必要でした。滋賀県では、専用の温室やいけすが設けられ、肥料や栽培環境に配慮しながら、その対応にあたりました（史料⑭）。

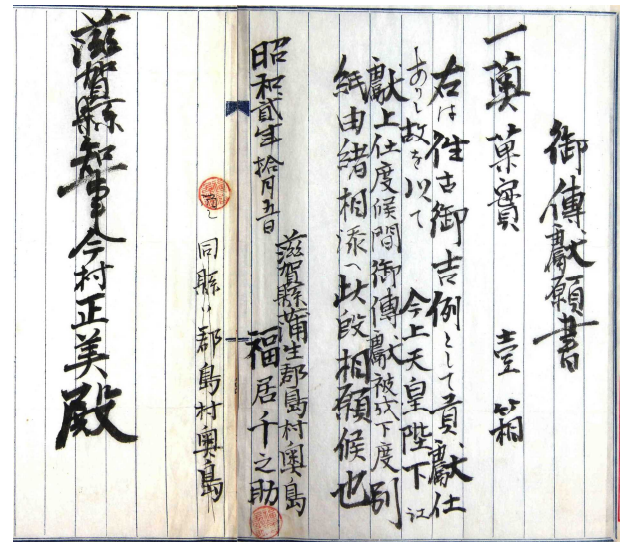
琵琶湖ホテルは、昭和九年の開業以降、度々行幸や行啓の宿泊施設に使用されています。外国人向けに設計された同ホテルでの食事は洋食がメインで、高松宮来県時には前菜・スープ・魚料理・肉料理・デザートというコース料理が出されました(史料⑮)。

行幸・行啓では、視察施設で食事をとることもあったようです。昭和十七年、高松宮は醒井養鱒場を訪れ、鱒をふんだんに用いた料理を食しています(史料⑬)。食事も視察の一環であつたようです。

また、戦後に行われた昭和二十六年の行幸の際には、県内では入手困難であつたセロリなどの野菜が米軍大津キャンプから提供されました。



①「献上品の儀に付上申」
大正14年2月14日【大か22(82)】



⑦「むべ伝献願書」昭和2年10月5日
【昭か86(5)】



⑩「(写真) 日の丸を持った信楽焼のタヌキ」
昭和26年【滋賀県所蔵】



⑧「(写真) 明治神宮に献木された黒松」
大正11年5月【資582】

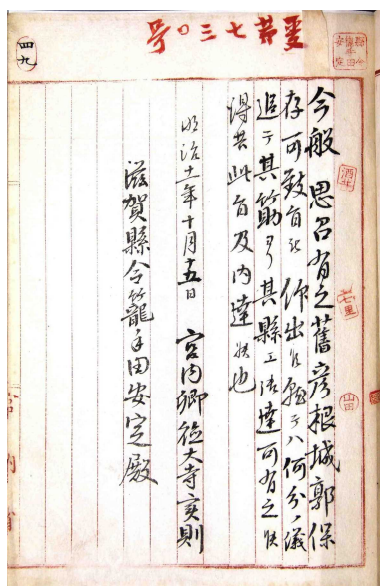
皇室と滋賀の特産物

行幸や行啓、皇室慶弔の度に、滋賀県では様々なものが献上、天覧されてきました。

長寿の果実「郁子（ムベ）」をご存じですか。蒲生郡島村奥島特産の果物（アケビ科）で、古来から宮中に献上されてきました。この吉例にならい、昭和天皇にも献上されています（史料⑦）。

明治天皇・皇太后を祭神とする明治神宮の造営時には、その境内に全国からの献木が植樹されました。その中には滋賀県からのものもあり、近江八景で有名な「名木唐崎松ノ種子ヨリ発生シタル小松」は、神宮宝物殿前石橋の右側に植栽されました（史料⑧）。献上品の中には伝統的なものだけでなく、当時最先端の工場製品もありました。それが、天然繊維にかわる新繊維として脚光を浴びていたレーヨンです。「我国化学繊維工場中最古」とされる旭絹織株式会社（大正十一年設立）は、「我国最初ノ国産品」として「旭絹絲」を献上しています。大正期以降、レーヨンは工場は行幸・行啓先としても訪問されました。

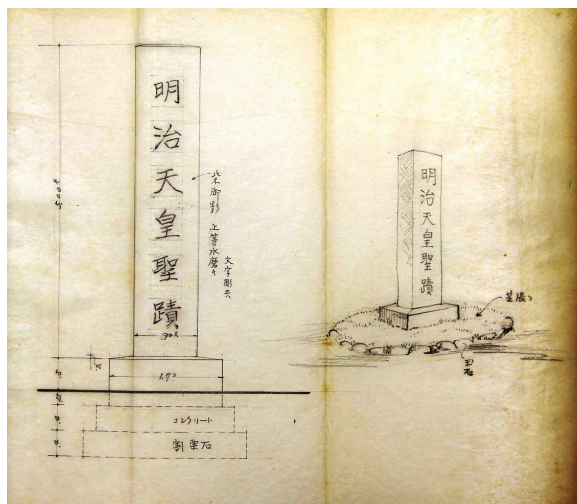
現在よく知られている信楽焼のタヌキも、昭和天皇と縁があります。昭和二十六年行幸の際、信楽窯業試験場の正門際には日の丸の旗をもった信楽焼のタヌキが十数個並べられ、天皇を出迎えました。天皇はそれを見て、「をさなどきあつめしからになつかしも信楽焼の狸を見れば」と詠みました。この歌をきっかけに信楽焼のタヌキは有名になったのです。



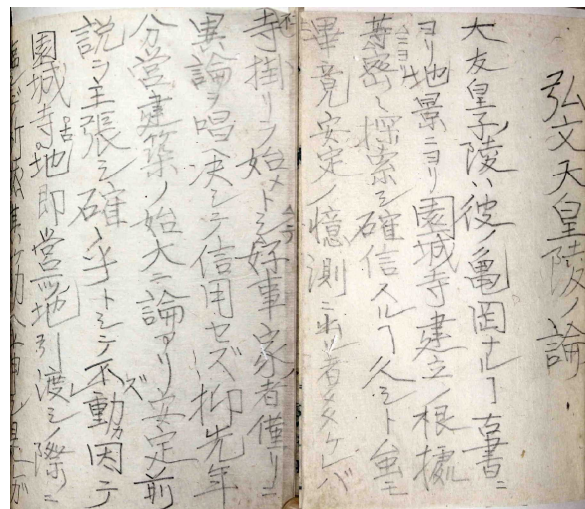
⑳「旧彦根城郭保存の件」
明治 11 年 10 月 15 日【明あ 112 (49)】



㉑「皇子山略図」明治 9 年 6 月 20 日【明せ 99 (79)】



㉒「県庁内聖蹟標識図面」昭和 14 年 6 月 23 日
【昭の 5 (62)】



㉓「弘文天皇陵の論」明治 9 年 8 月 19 日【明せ 99 (83)】

皇室と滋賀の文化財

滋賀県には皇室と関係の深い文化財も数多くあります。

明治三年に追諡が行われ、正式な即位が確定した弘文天皇ですが、その陵墓の場所は依然不明なままでした。翌四年、明治政府は未確定陵墓の確定作業を行うこととし、弘文天皇陵についても候補地の調査が進められました。調査段階で最も有力とされたのが、皇子山古墳でした(史料㉑)。しかし、当時の籠手田県令は一貫して亀丘説を主張していました(史料㉒)。調査の結果、亀丘から古鏡などが発掘されたことにより、最終的には亀丘に治定されます。

彦根城は、明治四年の廃藩後、兵部省の管轄となりました。明治十一年には陸軍省の所管となり、敷地内の不要な建造物は次第に撤去されていきました。そして、ついに本丸・天守などまでが入札にかけられることになったのです。しかし、払下げ・取り壊し直前にこの話が明治天皇の耳に入り、保存が命じられたのでした(史料㉓)。

大正から昭和初期にかけて、明治天皇聖蹟保存運動が盛んになります。明治天皇聖蹟とは、明治天皇が訪れた場所や建物などを指します。京都と東京の往来でよく通輦された滋賀県には、聖蹟が数多くありました。そのひとつが、明治二十三年の来庁時に使用した旧庁舎正庁(現庁舎記念室として移築保存)で、それを示す石碑(史料㉔)も現存しています。

【滋賀県への主な行幸・行啓年表】

西暦	元号	期間（月/日）	天皇名等	目的
1868	明治 1	9/20～9/23	明治天皇	東幸
		12/20～12/22	明治天皇	還幸
1869	明治 2	3/7～3/9	明治天皇	東幸
1878	明治 11	10/9～10/22	明治天皇	北陸巡幸
1880	明治 13	7/12～7/14	明治天皇	山科、三重、京都巡幸
1887	明治 20	2/20	明治天皇	還幸
1890	明治 23	4/9	明治天皇	新築の滋賀県庁舎と琵琶湖疎水工事の見学
1910	明治 43	4/14	嘉仁親王	江濃地方における陸軍参謀演習
		10/6～10/11	嘉仁親王	県下巡啓
1912	明治 45	4/22～4/24	嘉仁親王	陸軍参謀演習
1917	大正 6	11/13～11/18	大正天皇	陸軍特別大演習
1918	大正 7	4/4	裕仁親王	京都市行啓
1951	昭和 26	11/15～11/16	昭和天皇	湖国巡幸
1959	昭和 34	8/8～8/10	明仁親王	日本ジャンボリー（第2回）饗庭野・今津町
1968	昭和 43	10/13～10/14	明仁親王	明治百年記念あゆ放魚祭、第2びわこ学園等視察
1974	昭和 49	9/27～9/29	明仁親王	希望が丘文化公園完成記念祭典
1975	昭和 50	5/24～5/28	昭和天皇	全国植樹祭
1979	昭和 54	8/1～8/2	明仁親王	全国高等学校総合体育大会総合開会式、地方事情視察
1981	昭和 56	10/12～10/15	昭和天皇	第36回国民体育大会秋季大会
		9/12～9/15	明仁親王	第36回国民体育大会夏季大会
		10/23～10/25	明仁親王	第17回全国身体障害者スポーツ大会
1984	昭和 59	8/27～8/28	明仁親王	世界湖沼環境会議開会式
1993	平成 5	8/23～8/25	徳仁親王	第5回全国農業青年交換大会
1994	平成 6	10/26～10/28	明仁天皇	地方事情視察
1995	平成 7	9/30～10/2	徳仁親王	第19回全国育樹祭
2007	平成 19	11/10～11/13	明仁天皇	第27回全国豊かな海づくり大会、地方事情視察
2012	平成 24	7/23～7/24	徳仁親王	第48回献血運動推進全国大会
2018	平成 30	5/25～5/26	徳仁親王	第29回全国「みどりの愛護」のつどい

※睦仁親王は明治天皇、嘉仁親王は大正天皇、裕仁親王は昭和天皇、明仁親王は上皇、徳仁親王は今上天皇の各東宮・皇太子時代

展示図録 皇室と滋賀県

令和元年（2019年）5月7日

編集・発行

滋賀県県政史料室

〒520-8577

滋賀県大津市京町四丁目1番1号

滋賀県庁新館3階 県民情報室内

Tel : 077-528-3126

Fax : 077-528-4813

Mail : kenmin-j@pref.shiga.lg.jp



「(写真) 日の丸を持った信楽焼のタヌキ」
昭和26年【滋賀県所蔵】